

花や芝生を利用した 農村景観の環境美化

雪印種苗(株) 中央研究農場

入山 義久

1 はじめに

一般家庭の庭先、酪農家の牛舎周りのちょっとした空き地をはじめとして、工場周辺や道路法面、荒地などの環境美化、高速道路のパーキングエリアや公園などの、一般市民の憩いの場所を提供する場面で、近年では、町おこしの一環として町ぐるみで1つの花を主要道路の脇に栽植するなど、多くの場面で緑化が盛んに行われています。

ここでは、栽培の簡単な植物を利用して、だれもが手軽に趣味の領域で始められる環境美化としての緑化についてご紹介いたします。

2 代表的な緑化用植物

環境美化としての緑化の最大の目的は美しい景観を作り出すことですが、外にも考えなければならぬことがいくつかあります。雑草以外の植物を用いて地表面の土の露出を最低限にすること、そして、簡単な管理作業で美しい景観を維持できること、この2つにも注意して緑化を行いたいものです。緑化用植物はかなりの種類が市販されています。自分の好みに合う花を選ぶことが一番ですが、その場所の条件(日陰、湿潤地など)やその地域の気候、また、どの程度まで管理の時間を費やすことができるかによって、利用する植物を選択する必要があります。実際には、芝生、ミックスフラワー、グランドカバープランツなどが環境美化には用いられています。

3 芝生の利用

芝生の魅力は、何と言っても殺風景な庭先を緑の絨毯じゅうたんに変身してしまうことです(写真1)。芝生



写真1 庭に芝生のある風景

の上でガーデンパーティーやレクリエーションを楽しむこともできます。我が国で利用できる芝草は数10種類ありますが、表1に分類されているように、暖地型芝草と寒地型芝草の2つに、気候的に栽培できる地域が限定されており、その地域によって芝草の種類を選択する必要があります。例えば、北海道のように雪の多い寒冷な地域では耐寒性の強いケンタッキーブルーグラスが最も多く使用されております。

1) 造成方法

芝生の造成は種子の播種による方法と、張り芝による方法の2つがありますが、暖地型芝生は張り芝による方法が一般的です。この張り芝による造成では、一面の芝地を短時間で仕上げることができます。種子の播種による造成では、均一な美しい芝生が作れるとともに、自分で種子から芝生を作るという楽しみも味わうことができます。

2) 管理方法

芝生を一定状態に維持するためには、刈取り、施肥、場合によっては病虫害の防除などの管理作

表1 芝草の種類と利用可能地域

分類	草種名	利用可能地域
暖地型 芝草	ノシバ	本州～沖縄
	コウライシバ	
	バミューダグラス	
	センチピートグラス	
寒地型 芝草	ベントグラス	北海道～本州(高冷地)
	ケンタッキーブルーグラス	北海道～九州(高冷地)
	クリーピングレッドフェスク	
	チューイングフェスク	
	トールフェスク	
	ペレニアルライグラス	

業が必要です。特に刈取りは最低限必要な作業になりますので、少なくとも週1回～10日に1回程度は行わないと、美しい芝生の維持は難しいと考えられます。このように、見栄えは美しいが、その維持管理にやや手間が掛かってしまうことが芝生の欠点とも言えると思います。しかしながら、近年に開発された芝草の品種は矮性で伸びの少ない品種がいくつかありますので、これらの品種を用いることで管理作業を軽減することができます。

4 ミックスフラワーの利用

海外においては栽培の簡単な野生草花のミックス(ワイルドフラワー)が利用されていますが、日本ではこれらの栽培の簡単な野草に園芸用草花を加えて、種子によって手軽に栽培ができ、ある程度のやせ地、粗放的な管理にも耐えて、比較的簡単に美しい花が鑑賞できる草花(ミックスフラワー)として普及しています(写真2)。

単一の草花を用いた緑化では、一面に咲き誇る圧倒的な景観を楽しむことができますが、ミックスフラワーを用いた緑化では、様々な草花が同時に開花し、また、季節ごとに次々と草花が移り変わる変化のある景観を楽しむことができます。

ミックスフラワーに使用できる草花は多くあり

表2 ミックスフラワーに使われている代表的な草種

分類	草種名
1年草 (2年草)	ヤグルマソウ、ハルシャギク、コスモスピッキー、ハナビシソウ(写真3)、カスミソウ、レッドエンジェル、ポピーシャーレ(写真4)、パチュニア、コマチソウ、イエローカーペット、ツキミソウ、アリッサム、ルピナスブルーボネット、ワスレナグサ、ルリカラクサ、コモンカラクサ、サクラギソウ、フロックスドラモンドー、セイヨウセキキク、ビオラ、ヒメキンギョソウ
宿根草	ジャスターデージー、オオキンケイギク、ピジョナデシコ、ブルーエンジェル、ルドベキアワイルド、ローマンカモマイル、ナツユキソウ、ヒメナデシコ(写真11、12)、ロックピンク、オオテンジギク、カワラナデシコ、シュクコンカスミソウ、エゾミソハギ(写真7、8)



写真2 国道脇のミックスフラワー スノーレインボー(表2, 写真3, 4), 緑化する場所の使用目的、管理程度、気候に応じて、使用する花の種類や播種時期などを決定する必要があります。特に、北海道及び府県の高冷地において栽培する場合は、草花の生育にとって最適な生育の期間が限られているために、府県の一般地域で栽培されている草花と同じものが、同じ栽培方法で栽培できるとは限りません。しかしながら、沢山の草花の中から独自にブレンドを工夫できる面白さもあります。

1) 造成方法

播種前に播種床を耕し、雑草を取り除き、均一に整地しておきます。雑草を抑えることが順調に生育・開花させるための最も重要なポイントです。畑地などの肥沃な状態では無肥料でも草花は生育できますが、肥料分の少ない場所では状況により基肥として化成肥料を施肥します。

種子は種子量の10倍程度の乾いた土と良く混合して播種を行うと、片寄りが少なく均一に播種することができます。また、全体を1度に播種せず、種子を均等に2つに分けて、縦に横にと2度に分けて播種を行うと、種子が片寄らないように播種



写真3 ハナビシソウ



写真4 ポピーチャーレ

することができます。播種した後は土を薄くかけ、軽く鎮圧をします。

2) 管理方法

ミックスフラワーの栽培は、できるだけ雑草の数を減らすことが美しい景観を作るための重要なポイントになります。雑草が草花の初期生育を妨げることが考えられる時には、雑草発生の初期の段階で除草を行います。その後はミックスフラワーの草花より草丈が高く、目立つ雑草のみを除草します。また、人の通れる程度の幅の通路と播種床を交互に作り、除草などの作業は通路に入っていく「帯条播」で播種を行うと、後の除草作業が容易になります。雑草の侵入を防ぐ目的で、芝草と混播する方法もあります。この場合は、草花の生育を抑制しない程度の混播量(イネ科を2 g/m²程度)にする必要があります。

長期的に景観を楽しむならば、除草の外に追肥や開花終了後の刈払い、状況に応じて追播作業も必要となってきます。

5 グランドカバープランツの利用

「環境美化のために芝草を播きたいが、その管理に掛ける時間がない」「ミックスフラワーは雑草の除草作業が面倒だ」と、よく言われていますが、これらの植物に代替できる草種として、地面をち密に覆うことができ、草丈があまり高くないため、刈取り管理のいらない緑化植物材料として、グランドカバープランツがあります。

最近では、水田畦畔のように大面積で、かつ、刈取りなどの管理が困難な場所などに、手間の掛からないグランドカバープランツが利用されるようになってきています。

グランドカバープランツを直訳すると、「地面を覆う植物」となり、この中には前述した芝草も含まれてしまっていますが、ここでは芝草やミックスフラワーよりも管理の手間が掛からないいくつかの草種についてご紹介いたします。グランドカバープランツとして利用できる草種は数多くあり、それぞれの生育条件も異なっていますので、栽培する地域が生育条件に適しているかを、あらかじめ確認する必要があります(表3)。

1) アジュガ(シソ科)(写真5, 6)

半日陰を好みますが、日なたや日陰でも生育はできます。地上匍匐茎で広がり、肥沃で土壌が柔らかく湿り気のある土壌を好みます。草丈は10 cm



写真5 アジュガ

表3 グランドカバープランツの代表的な草種

No.	草種名	科名	分類			主な鑑賞部位 花 葉	葉色	花色	草丈 (cm)	適応地域
			草本	木本	特性					
1	アジュガ	シソ	○		葡萄莖	○	緑、黄、赤に変色	青紫	10	北海道中部以南
2	エゾミソハギ	ミソハギ	○			○	緑	紅紫	90	全国
3	シバザクラ	ハナシノブ	○			○	鮮緑	赤、桃、青、白	10~20	全国
4	ヒメナデシコ	ナデシコ	○			○	淡緑	赤、白	10~20	全国
5	ピンカ	キョウチクトウ	○		葡萄莖	○	緑	青紫	30	東北以南
6	ツクヌキニンドウ	スイカズラ		○	つる性	○	緑	赤	—	北海道南部以南
7	ナツズタ	ブドウ		○	つる性	○	鮮緑	黄緑	—	全国
8	ヘデラ	ウコギ		○	つる性	○	緑(斑入)	—	—	東北以南
9	エリカ	ツツジ		○		○	緑、黄、朱	桃、白	20~50	全国
10	ハイビャクシン	ヒノキ		○		○	緑	—	50	全国
11	イブキジャコウソウ	シソ		○		○	緑	赤	10	東北以南
12	ラベンダー	シソ		○		○	緑	紫	60~70	全国(品種による)



写真6 旺盛なアジュガの葡萄莖



写真7 エゾミソハギ

程度で、水田畦畔緑化に利用している方もいるようです。花色は紫が一般的で、夏の葉色は緑ですが、低温期には暗紅紫色を呈します。開花期間は5月下旬から6月下旬。

2) エゾミソハギ (ミソハギ科) (写真7, 8)

草丈は1 m程度まで生長してしましますが、陽地で湿り気のある土壤を特に好むため、他の植物が育たないような湿った場所での緑化が可能です。花色は紅紫色。株分けでの増殖が一般的ですが、種子による増殖も可能です。

3) シバザクラ (ハナシノブ科) (写真9, 10)

多数の分枝を出し、密生して地上を覆います。草丈は10~15 cm程度。陽地から半陽地を好み、北海道の代表的な植物です。開花期間は5月中旬から6月中旬。花色の異なる品種が数多くあり、色の組み合わせが可能です。被覆速度は速いですが、早春または開花終了後に追肥をすることによって、さらに生育を旺盛にすることができます。

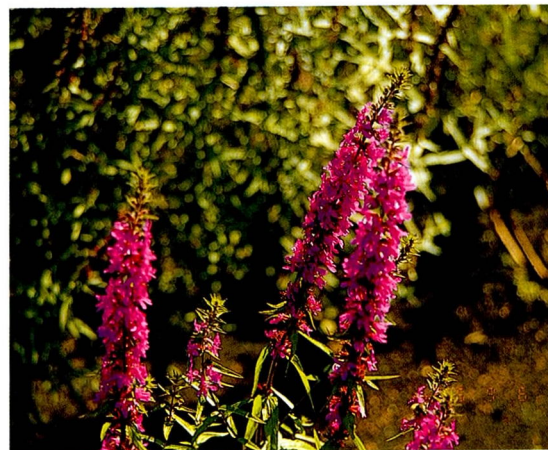


写真8 エゾミソハギの花

4) ヒメナデシコ (ナデシコ科) (写真11, 12)

種子による広範囲の緑化が可能であり、当社のミックスマスフラワーにも使用されております。陽地から半陽地を好み、草丈は10~20 cm程度。花色は近年新しい品種が開発され、既存の赤に加えて



写真9 シバザクラ (白)



写真11 ヒメナデシコ (赤)



写真10 シバザクラ (ピンク)



写真12 ヒメナデシコ (ピンク)

ピンクと白が販売されています。開花期間は6月中旬から7月中旬で、開花終了後に花殻部分の刈払いを行うと、その後の生育が良好になります。

5) ピンカ (キョウチクトウ科)

匍匐性のある多年草で、生育が極めて旺盛なため、短期間で密生し、雑草の侵入が少なく、被覆効果が高いのが特徴です。株の伸長量が大きいため、広い面積の緑化に適しています。やせた土では、葉の黄化や冬季の落葉、枯死を招く恐れがあります。

6) ナツズタ (ブドウ科)

落葉のつる植物。耐寒性は比較的ありますが、東北以南での使用が安全です。日陰地の生育も良好で、建築物の壁面、石壁などの緑化に好適です。比較的やせ地にも耐え、ほとんど管理を必要としません。

7) ラベンダー (シソ科)

草丈60~70cmの多年草。初夏の富良野の大地を埋めつくす青紫の絨毯はあまりにも有名で、富良野の観光資源になっています。日当たりの良い石灰質に富んだ水はけの良い場所を好みます。香料、入浴剤、ポプリなど用途の広いハーブの1つです。

6 おわりに

今回は、芝生、ミックスフラワー、グランドカバープランツをご紹介いたしました。もちろん、ここでご紹介したグランドカバープランツ以外にも、たくさんの植物がグランドカバー用として市販されております。皆さんの好みの植物を使って、まずは身の回りから、環境美化としての緑化に挑戦してみたいかがでしょうか。